***教育問題について***

いじめ問題。昨今ニュースで取り沙汰されている、教育問題の１つである。

今ニュース等では多くのいじめ問題について報道されてはいるが、いじめの判断基準が都道府県によって異なり、また報告されていない件数があることを考えるとその件数は計り知れないといえるだろう。早期の解決が望まれる問題であるはずだが、遅々としたその対応に対し、ここに、いじめ問題含め教育問題への提言をしたい。

いじめ問題。昨今ニュースで取り沙汰されている、教育問題の１つである。

今ニュース等では多くのいじめ問題について報道されてはいるが、いじめの判断基準が都道府県によって異なり、また報告されていない件数があることを考えるとその件数は計り知れないといえるだろう。

早期の解決が望まれる問題であるはずだが、遅々としたその対応に対し、ここに、いじめ問題含め教育問題への提言をしたい。

現在の義務教育課程の学校にみられる問題点として、具体的には校内暴力・不登校・いじめ問題・教師の指導力不足等があげられるであろう。

ここで、これらの諸問題を検討した結果、根本から問題を解決しうる対策を提示する。

それは、**教師の質の向上**である。

![C:\Users\ERIKA\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\IC8UBA6U\MC900071184[1].wmf]()

***《教師の質の向上のためには・・・》***

教師になるのは大変に？

1. **「教師になるのは大変？」**

どんな問題にも真剣に向き合うことができる教師輩出のために、長いインターバル（3～5年？）での教育実習を実施してから、教師としての仕事を始める、といった制度を設ける。教師として学校に採用されてからも、3、5年ごとの第三者の評価による審議で教師の質の維持を目指す。しかし、その負担から危惧されることは、教職を志す人数の減少である。現在もその人数の低下に警鐘が鳴らされているが、それを助長するのではないかと思われるであろう。その対策としては、教職に高齢者の第二の人生の選択肢の一つにする、労働に見合ったよりよい給料にする、といった付加価値を与えることを提案したい。

新しい授業の提供を！

校内におけるすべての授業で、生徒の「活動作業」を取り入れ、数分でもグループによる「協同」の話し合いと、多様な意見を交換する「表現の共有」を試みるといった授業形態を全学校で取り入れる。さらに、最低でも１年に１回の授業公開を行い、その後、教師は相互に批評をしあう研究会を行う。授業研究会での授業の検討は、教室の事実に即して「活動作業」と「協同」の話し合い、「表現の共有」の三つの要素がどのように機能していたかを検討し、どこで生徒の学びが成立し、どこでつまずいたのかを一人ひとりの生徒の姿に即して詳細に検討するのだ。こうすることで授業の質と教師の質の両方を高めさせることができるであろう。

開かれた学校を作ろう！

上記の授業研究会を学校に通う保護者、学校周辺地域の第三者の方に対して一部公開型にする。学校評議員（保護者・地域住民で構成）とPTAと学校で、学校を外部評価し客観的に学校を見直し、共に課題を見つける。

こうした開かれた学校作りは校内暴力、不登校の減少につながる可能性が期待できる。

高齢者の方の力を借りよう！

定年退職後の高齢者の第二の人生として、教鞭をとってもらう、またはカウンセラー的立場からの指導をお願いする制度を導入していく。